

効果報告レポート

【事業者名】

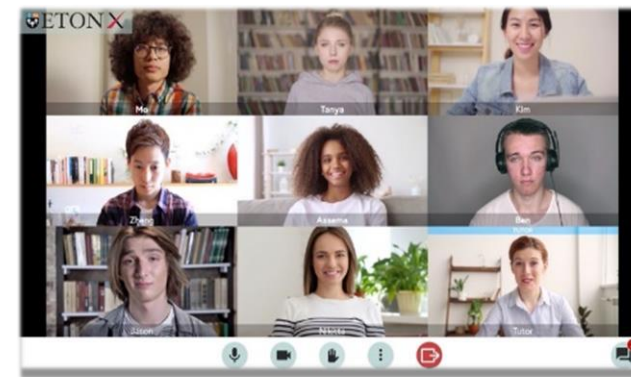
凸版印刷株式会社/グローバルスカイ株式会社

【ツール名】

ETOKI-edu/EtonX

【ツールの機能分類】

学習支援・授業支援 (LMS) / 発展的な学び



2022年2月

目次

EdTechツールの概要	…2-3p
学校等教育機関の抱える課題	…4p
EdTech導入補助金2021における活用事例	…5-6p
補助事業において実施したサポート内容	…7p
EdTech導入補助金2021における導入実績	…8p
EdTechツールの活用効果にかかる分析と考察	…9-13p
EdTechツールを活用した児童生徒・教員のコメント感想等	…14-16p
EdTechツールの導入・運用における課題とその改善策	…17p
会社概要	…18p

ETOKI-edu

ETOKI-eduは、絵画資料の閲覧・コメント・プレゼンテーション作成などをクラスの生徒教員間などで共有できるプラットフォームです。本物をじっくり見ることが難しい、貴重な資料などを教育現場で活用することを可能にします。絵画資料の任意の場所にコメントを書き込むことができ、可視化されるため、お互いの知識や気づきをもとにした学びの協働化を促します。

ツールの特徴

①絵画資料の鑑賞

デジタル資料鑑賞での題材理解

トッパン保有の歴史文化資料の高精細アーカイブデータのほか郷土の魅力を語る写真などを活用
簡単な操作で拡大縮小、視点移動

②気づきの共有とプレゼン作成

ETOKIシステムを使った協働学習

アプリダウンロード不要

WEBブラウザ上で書き込み、共有

絵画資料を使ったプレゼンテーション作成で
対面授業、オンライン授業双方に対応

活用場面

ETOKI-eduを使った授業プログラム例：

「国宝文化財を使って日本文化を英語で紹介しよう」（総合、英語）

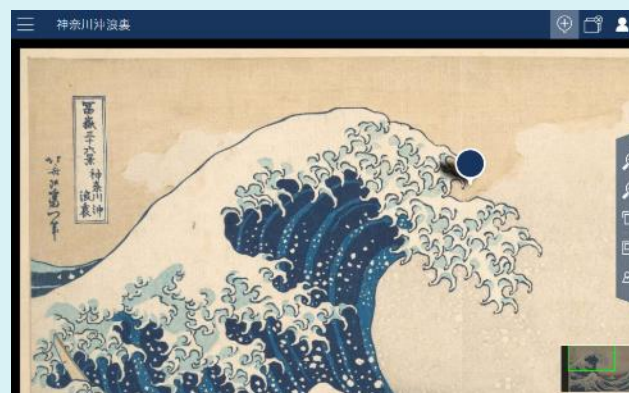
江戸時代の京都の街並みが描かれた洛中洛外図屏風を題材にして

各グループでどんな日本紹介ができるかディスカッション

ETOKIシステムを使ってメモやプレゼン原稿を作成、オンライン会議システムを介して、ETOKIシステムで題材を指し示しながら各グループによる発表

ツール利用による効果

- ・視点移動が自在なため、**題材への興味関心や探求心が深まる**
授業や**プレゼンテーションの自由度が上がる**
- ・コメントの蓄積・可視化による知識の掛け合わせにより
新たな気づきが得られ**学びの協働化がすすむ**
- ・生徒の授業への貢献度が見える化され、**能動的な学びを促す**



EtonX

EtonX (英国イートン・カレッジオンラインプログラム)はグローバルに活躍する若者に求められる対人力やプレゼンなどのスキルを始め、様々な能力を英語で学びながら養成するオンライン学習プログラムです。動画やインタラクティブ・スライドを使ったEラーニングでの自学習と、バーチャルクラスルームで世界中の若者と一緒に受講するディスカッションで構成されています。

ツールの特徴

EtonXでは、11コース※の中から身に付けたい力や語学力に合わせ、各校の生徒に最適なコースを選定することが可能。

※コミュニケーション、多面的思考、公の場でのスピーチ、人の心を動かす、創造的課題解決、立ち直る力、アカデミックライティング、リサーチの技法、CVライティング、面接での自己表現、起業家精神

① 能動的に考える豊富な自学習課題

日々の課題として組み込まれた動画で、実際にイートン・カレッジに通う生徒や同年代の英国の生徒、コースの学習分野の専門家の意見を聞いたり、自らで課題を分析したりしながら、能動的にアイデアを出し他者と共有できる力を養成していきます。

② バーチャルクラスルームでのグローバルな学び

世界各国から参加する8名の生徒に1名のイートン認定講師がつき、ディスカッションを行う。日本に居ながら国際環境で議論を重ね、多様性や協働する力を身に付けていきます。

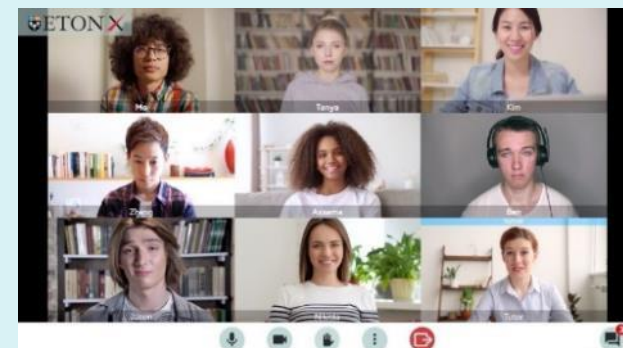
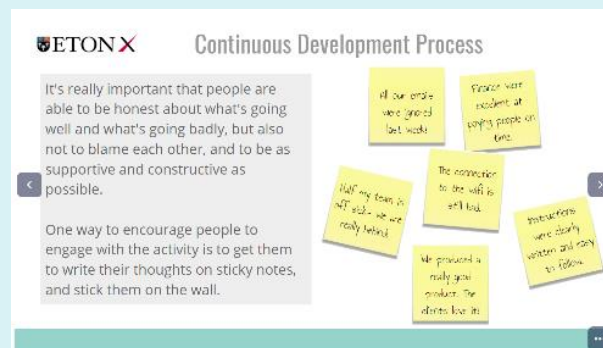
活用場面

EtonX導入活用例：

- ・ グローバルリーダーシップ教育プログラム
- ・ 海外研修補完・海外協働プログラム
- ・ 高大接続プログラム

ツール利用による効果

- ・ 主体的な学習法により **自分事として物事を捉え解決していく力を養う**
- ・ コースウェアに沿った予習に基づく反転学習で、スキルと英語力の **定着率が上がる**
- ・ 探究や内省、共有を繰り返す **主体的探究的な学びを通じて自己を変化**させる
- ・ 国際環境での学びにより、世界で活躍するリーダーに必須とされる **自己理解、他者理解、環境理解**を身につける



コロナ禍の教育現場の課題

グローバルな学びの機会が減少

国際間往来の制限に出口が見えない現状で、グローバルな学びの機会が奪われています。

生徒が楽しみにしている海外研修、短期留学、姉妹校交流などの実施見通しが見つからないことが学校の悩みになっています。

バーチャルクラスルームで世界の若者と学ぶEtonXの学習環境は、そうした活動を代替するものとなり得ます。

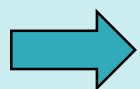
ETOKI-eduを活用した学習では、さまざまな文化的背景や価値観をもつ人々の中での共感力を伸ばすこととなります。

アクティブラーニングの再考

オンライン授業やICT端末を活用した自宅学習が広がるなか、オンラインでのグループ学習や生徒1人1人の評価手法の再考が求められています。

EtonXは、独自のEラーニングシステムで時間場所を問わずに取り組めるため、生徒たちの学習計画性、自己管理能力を高めます。

ETOKI-eduは、資料への書き込みを複数名で同時に行えるため、オンラインでも1人1人の貢献を可視化し、学びの協働化を促します。



本事業において凸版印刷とグローバルスカイは、ETOKI-eduとEtonXを学校現場の課題感をもとに効果的に組み合わせ、**国際発信力をつける完全オンライン対応学習プログラム**として提供

◆EtonX×ETOKI-eduオリジナルプログラム

- ・リーダーシップ教育で名高い英国イートン校が展開する語学学習プログラムEtonX
対話力やプレゼンテーション力など次世代のリーダーに求められるコミュニケーションスキルを養成
- ・デジタル資料を使って探求学習をサポートする協働学習ツールETOKI-edu
自国の文化歴史を相手にわかりやすく伝えるための知識や想像力をつける

➡学びを活かした日本文化についてのプレゼンテーションが最終課題

広尾学園小石川高等学校

学校教育機関のどのような課題を解決したか：

広尾学園小石川高等学校では、「自律と共生」の教育理念のもと、自らの意思で世界の課題をとらえ、高いコミュニケーション力と柔軟で寛容な精神をもって解決に導く力を育成することを掲げている。帰国生が多くいるなど海外志向が強いことが特徴。2021年開校の新校でコロナ禍で課外活動が十分にできない状況のなか、世界とつながることのできる取り組みで生徒の力を伸ばしたいとの意向を持っていた。希望制の課外活動としてEtonXとETOKI-eduを取り入れ、教科学習でも取り入れているプレゼンテーションや探究活動を補完した。

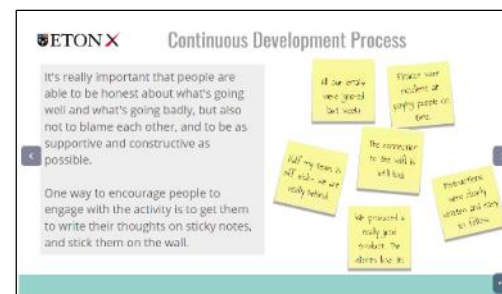
10月18日～12月4日までEtonXのCritical Thinkingコースを受講し、多面的思考力を養った。
Eラーニングで取り組む自学習と、学んだスキルを実践するオンライン講座で構成。講座は語学力に合わせ2つの受講形態を用意。

A オリジナルパターン 32名

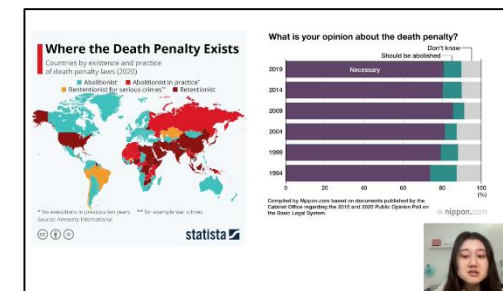
グループは日本人生徒のみ
英検2級程度またはそれ以上の生徒対象
オンライン講座(90分×3回)
10/30.11/20.12/4 17:00-18:30

B チューターパターン 16名

世界60か国から生徒が参加
英検準1級程度またはそれ以上の生徒対象
オンライン講座（50分×7回）
10/23,10/30,11/6,11/13,11/20,11/27,12/4
21:00-21:50



EtonXのエラーニング画面



EtonX 最終プレゼンテーションのようす

10月18日～12月18日までETOKI-eduを使って江戸時代の京都のようすが描かれた「洛中洛外図屏風」について探求学習。ワークショップではEtonXで培ったスキルを生かし、屏風をオンライン上で見せながら日本を海外に紹介するプレゼンテーションを発表した。

ワークショップ (90分×3回)

12/11 17:00-18:30
12/15 20:00-21:30
12/18 17:00-18:30

VR作品『洛中洛外図屏風 舟木本』
監修：東京国立博物館 制作：凸版印刷株式会社



グループワーク中のETOKI-edu画面



オンラインでのワークショップ^oのようす



プレゼンテーションのようす

■ EdTech導入補助金2021における活用事例

福岡県立糸島高等学校

期間: 2021年10月8日～12月24日

対象: 有志選抜者の総合学習

高校1年生 20名 高校2年生 20名

学校教育機関のどのような課題を解決したか：

福岡県立糸島高等学校は、糸島地域の歴史ある文化の理解とグローバル教育の推進を学校の特色に掲げている。昨今の教育改革に伴い、生徒たちが高校3年間でいかに成長し、将来活躍していくのかといったセルフプロデュース能力を養うほか、グローバル化する現代での自己表現力を高めたいという意向を持っていた。本導入実証では、EtonXで学ぶグローバル発信スキルとETOKI-eduをグループプレゼンツールとして活用することで多文化の人々に自分たちの地域を発信することを最終課題とした。仲間と協力的に意見を交わしながら発表を成功させ各々が成長を実感したことが、課題解決に繋がった。教科授業や課外活動との連動を重視し、総合学習の一部としての実施をした。

10月8日～12月8日までEtonXのPublic Speakingコースを受講し、公の場でのスピーチの方法を身に着けた。
Eラーニングで取り組む自学習と、学んだスキルを実践するオンライン講座で構成。語学力に合わせ日本語サポートを重点的に用意した。

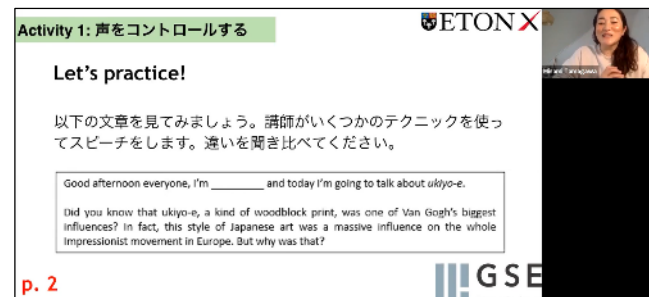
オリジナルパターン 40名

グループは日本人生徒のみ
日英バイリンガルの講師によるオンライン講座は
日本語と英語を織り交ぜながら進んでいく

オンライン講座 (110分×3回)
10/12, 11/17, 12/8 14:40-16:30



教室で自学習に取り組むようす



オンライン講座のようす



日本語サポート資料の一部

10月8日～12月24日までETOKI-eduを使って「洛中洛外図屏風」や自分たちの地域・学校について探求学習。
ワークショップでは糸島の写真をオンライン上で見せながら多文化の人々に紹介するプレゼンテーションを発表した。

プレゼンテーションは
対面・オンラインの
ハイブリッドで実施

ワークショップ
(110分×3回)
12/15 14:40-16:30
12/20 10:20-12:10
12/24 10:20-12:10



グループワーク中のようす



グループワーク中のETOKI-edu画面



プレゼンテーションのようす



プレゼンテーションのようす

■ 補助事業において実施したサポート内容

EtonXとETOKI-edu導入に際し、凸版印刷とグローバルスカイは、各学校等教育機関へ下記をはじめとしたサポートを行いました。

ツール導入前

◆テストアカウントの発行

導入校の教員に対して、EtonXとETOKI-edu双方のテストアカウントを発行しマニュアルとともに提供し、校内で先生が生徒のツール利用のサポートをできるようにしました。

◆コース設定にあたっての相談

EtonXでは身に着けたい力に合わせた5コース※の中から選択式のため、グローバルスカイが導入校の英語科教員等と綿密に連携しながら、教科学習との連動や補完を鑑み各校の生徒に最適なコースを決めていきました。

また、EtonXのディスカッション授業は、難易度別にクラスを分けていくため、各校の参加生徒の語学力や意欲度に合わせたクラス分けになるよう導入先教員と相談し決めました。

※コミュニケーション、多面的思考、公の場でのスピーチ、人の心を動かす、創造的課題解決

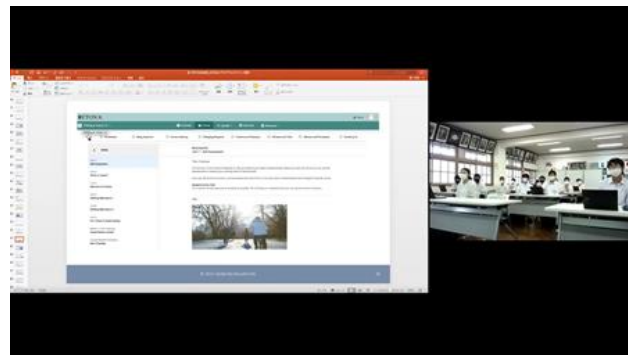
ツール導入中

◆システム操作のサポート

両ツールの操作マニュアルを教員・生徒向けに提供するほか、各校教員向け1回、生徒向け1回の操作研修を行いました。EtonXでは通常サポートの一環として実施している生徒対応を、本補助事業でも実施しました。期間中ヘルプデスクを開設し、常時2名のサポート人員を設置、不明点が出た場合は生徒や先生がメールや電話で直接問い合わせができる体制を整えました。ETOKI-eduはメールにて生徒や先生が問合せできる体制を整えました。EtonXは全て英語で行われるため、グローバルスカイが日本の教育機関向けに書きおろした全WEBサイトの日本語訳と解説資料を提供しました。

◆学習進捗のフォロー

期間中のEラーニングは生徒各自で計画を立てて進めていくため、システム上で進捗を確認し、遅れている生徒にはグローバルスカイの講師より個別メールで適宜フォローを行うことで、プログラムをやりとげられるようサポートしました。



EtonX 生徒向け操作研修のようす



ETOKI-edu生徒向け操作研修のようす

本事業におけるEdTechツール「ETOKI-edu」「EtonX」導入実績

全国4校の中学1年生から高校2年生まで143名の生徒が利用

ツール利用者総数：143名

学校等設置者数：3設置者

学校法人村田学園、福岡県教育委員会、
宮崎県教育委員会

学校等教育機関数：4校

▼広尾学園小石川中学校

東京都文京区本駒込2-29-1

松尾廣茂校長

▼広尾学園小石川高等学校

東京都文京区本駒込2-29-1

松尾廣茂校長

▼福岡県立糸島高等学校

福岡県糸島市前原南2-21-1

荒木礼子校長

▼宮崎県立宮崎大宮高等学校

宮崎県宮崎市神宮東1-3-10

押方修校長

広尾学園小石川中学校

利用対象：中学1年 利用人数：29名

利用期間：3カ月間

利用場面：

課外活動や自主活動の一環として希望者を募り実施
学習プログラム概要：

EtonX「Creative Problem Solving」コースで創造的
課題解決の仕方について学び、京都について描かれ
た国宝屏風絵を題材に、外国人に日本を紹介するグ
ループプレゼンテーションを作成

広尾学園小石川高等学校

利用対象：高校1年 利用人数：48名

利用期間：3カ月間

利用場面：

課外活動や自主活動の一環として希望者を募り実施
学習プログラム概要：

EtonX「Critical Thinking」コースで多面的思考につ
いて学び、京都について描かれた国宝屏風絵を題材
に、外国人に日本を紹介するグループプレゼンテー
ションを作成

糸島高等学校

利用対象：高校1年、高校2年 利用人数：40名

利用期間：3カ月間

利用場面：

総合の教科学習として希望者を選抜し実施

学習プログラム概要：

EtonX「Public Speaking」コースで公の場でのスピー
チについて学び、多文化の人々に自分たちの地域や学
校を紹介するグループプレゼンテーションを作成

宮崎大宮高等学校

利用対象：高校1年、高校2年 利用人数：26名

利用期間：3カ月間

利用場面：

課外活動として希望者を募り実施

学習プログラム概要：

EtonX「Verbal Communication」または「Making an
Impact」コースで人の心を動かすコミュニケーション
について学び、外国人に日本を紹介するグループプレ
ゼンテーションを作成

分析項目 EdTechツールを使ったことによる期間中の生徒の変容は下記の方法で把握・評価しました。

1. EtonX：コミュニケーションスキルを取得できたか

EtonXの利用によって、専門性のあるコミュニケーションスキルの取得ができたか測定しました。

コースごとに定められた10の力について自信をもっているかを、EtonX独自の5段階評価アセスメントにより学習の事前と事後に生徒が自己評価しました。導入校ごとに平均値を出し、学習前後の変化を調べました。

2. EtonX：英語での発信に自信がついたか

EtonXの利用によって、国際的な場で発信することに対し自信がついたか分析しました。自分が英語で発表することになったらどう感じるか、自信の度合いや不安なことを生徒に答えてもらうアンケートを、学習の事前と事後に実施し、学習前後の回答の変化を調べました。

3. ETOKI-edu：日本文化への興味関心や理解が高まったか

ETOKI-eduを活用した絵画資料の閲覧によって、対象への興味関心が深まったかどうかを見ました。題材となる江戸時代の京都の街並みや人々の様子が描かれた「洛中洛外図屏風」についての関心度と理解度を学習事前と事後でアンケート調査し、学習前後の生徒の回答の変化を調べました。

4. ETOKI-edu：学びの協働化が進んだか

互いのアウトプットがリアルタイムで可視化されるETOKI-eduを活用したディスカッションにより、学びの協働化が生まれたかを把握しました。ETOKI-eduを使うワークショップ全3回において、システム上に入力されたコメントをもとに、各生徒の発言数と発言量の変化を分析し、授業が進むにつれて行動変容が起きたか確かめました。「クラスメートの回答から気づきを得たか」などの項目で学習後の自己評価も行いました。

分析結果

1. EtonX：コミュニケーションスキルを取得できたか

EtonXは専門的なコミュニケーションスキルを身に着ける複数のコースがあり、コースごとに定められた10の力について自信をもっているかを独自の5段階評価アセスメントにより学習の事前と事後に生徒が自己評価しました。例えば「Critical Thinking」コースでは多面的思考の必要性、論証における根拠のつけかた、主張を裏付けるためのデータの使い方などを学びます。アセスメントでは「主張を裏付けるために使用するデータや統計を正しく評価することができる」などを5段階評価で聞きました。

導入校4校の アセスメント平均値の推移

3.03 → 4.10
学習前 学習後

5段階評価で1.07上昇

各校ごとのアセスメント平均値の推移

広尾学園小石川中学

3.63 → 3.81
学習前 学習後

広尾学園小石川高校

2.76 → 4.17
学習前 学習後

福岡県立糸島高校

2.89 → 3.89
学習前 学習後

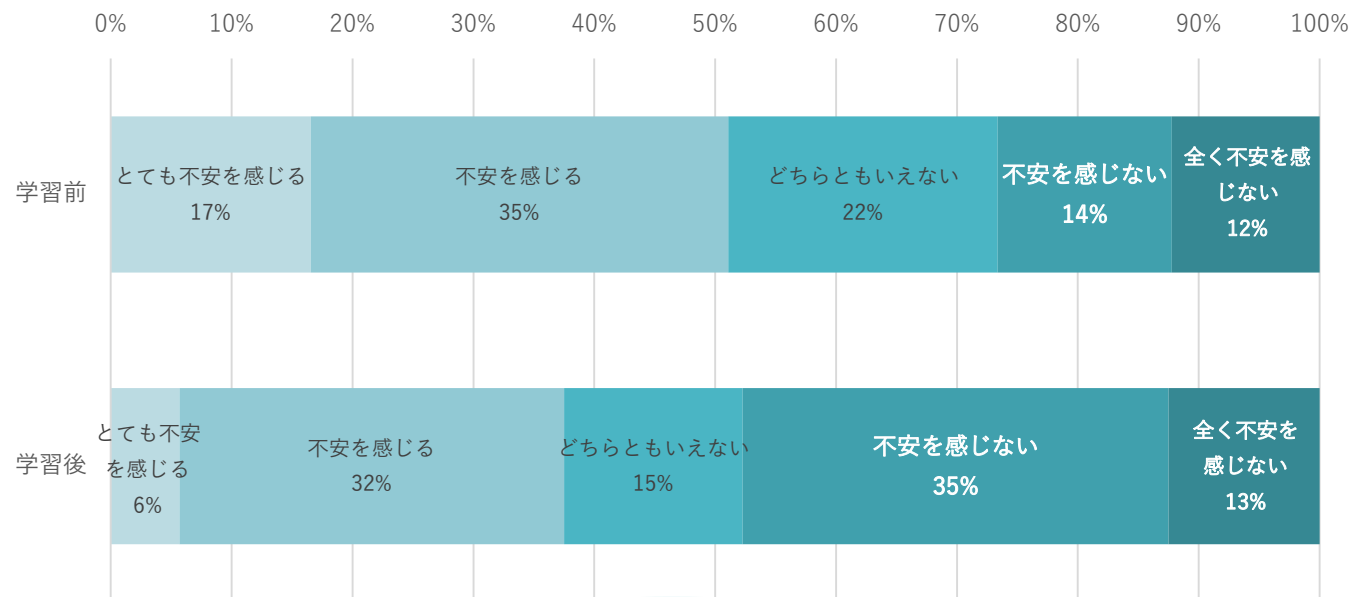
宮崎県立宮崎大宮高校

2.91 → 4.30
学習前 学習後

分析結果

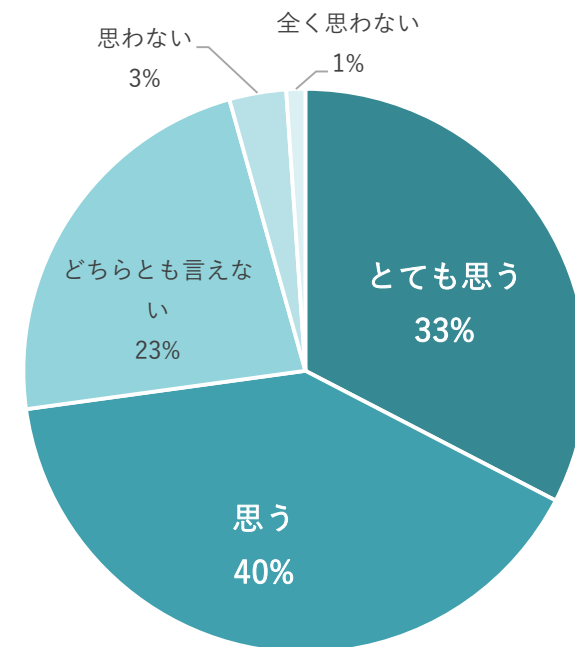
2. EtonX：英語での発信に自信がついたか

英語を話すことに不安を感じますか。



英語で話すことに
「不安を感じない」「全く不安を感じない」が増加
学習前 **26%** → 学習後 **48%**

プログラムを受ける前より、
英語話者と話しやすくなったと思いますか。

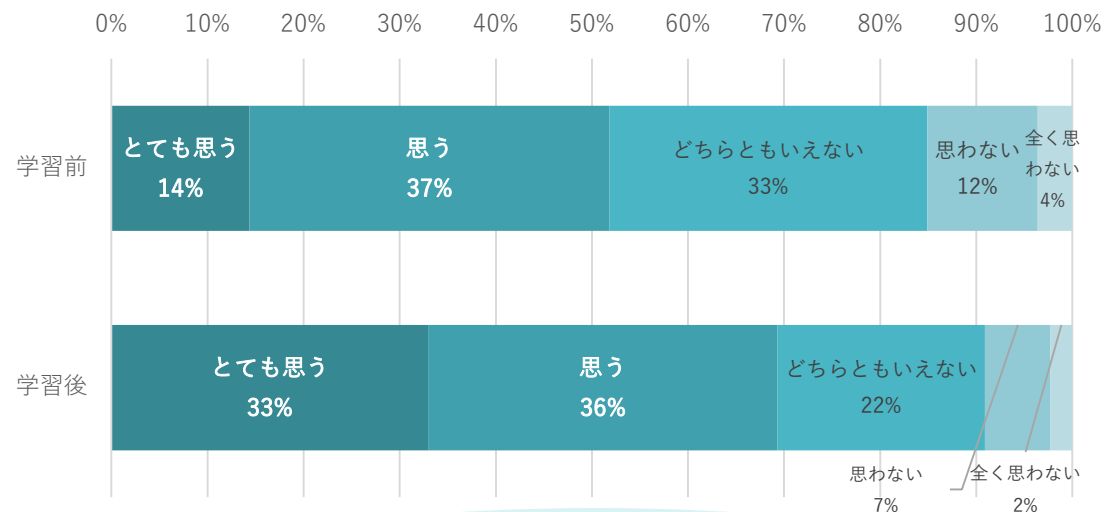


プログラム受講により
英語話者と話しやすくなった生徒
73%

分析結果

3. ETOKI-edu：日本文化への興味関心や理解が高まったか

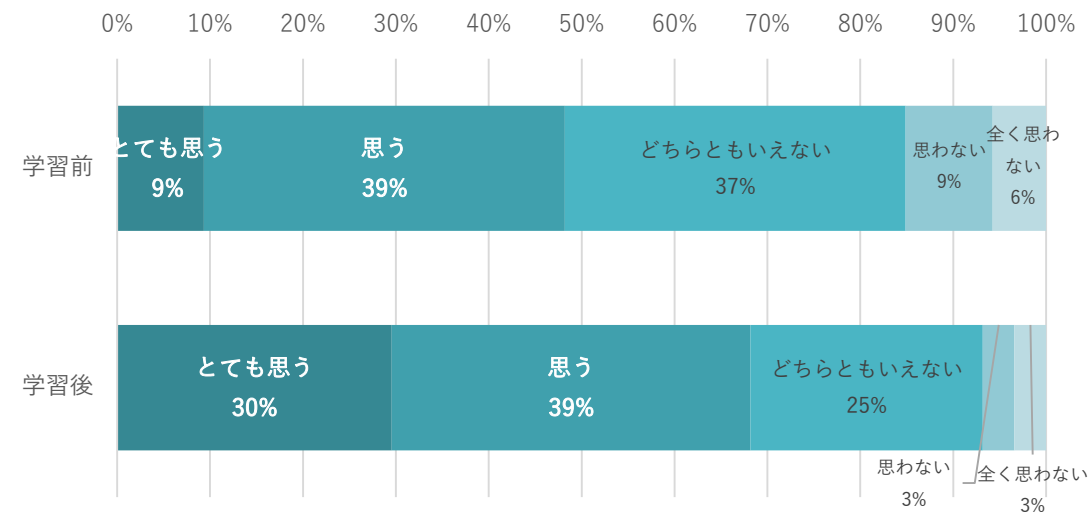
日本文化（江戸時代の京都）について、
友人・知人（または海外の人）に話してみたいと思いますか。



日本文化について話してみたいか？
「とても思う」「思う」が増加

学習前 **51%** → 学習後 **69%**

洛中洛外図屏風について、
友人・知人（または海外の人）に教えたいと思いますか。



洛中洛外図屏風について教えたいか？
「とても思う」「思う」が増加

学習前 **48%** → 学習後 **69%**

洛中洛外図屏風は、
何について描かれている屏風？
に対する回答に変化

学習前

「昔の日本の情景」
「人々の暮らし」
「わからない」



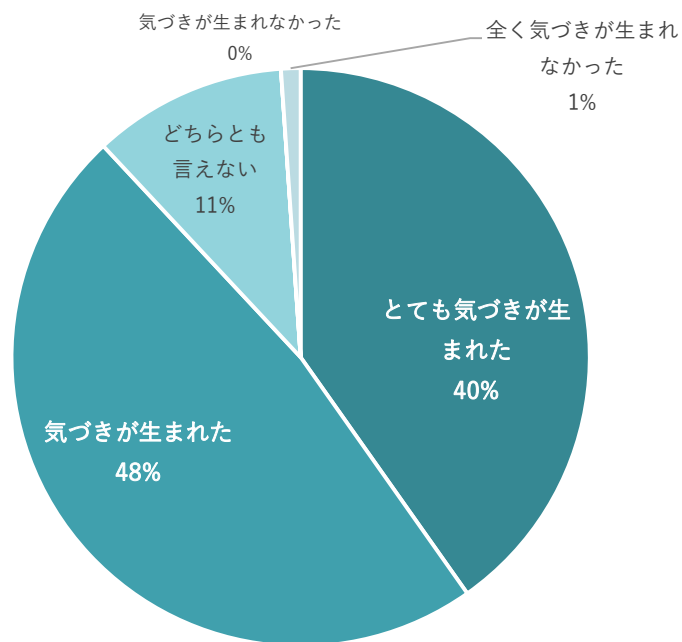
学習後

「江戸時代の京都の街並み」
「京の芸能、服装、食べ物など」
「江戸初期の京都について描かれた屏風です」

分析結果

4. ETOKI-edu：学びの協働化が進んだか

ETOKIを使った日本文化ワークショップで、同じプログラムを受けた仲間のコメントを見て気づきが生まれましたか。



ETOKIを使ったワークショップで、
仲間のコメントを見て気づきが生まれた生徒
88%

広尾学園小石川高校
グループ1（参加8名）
ETOKI画面より

後半の授業では
仲間のコメントに返信するなど
学びの協働化が進んでいる

DAY 1

VR作品『洛中洛外図屏風 舟木本』 監修：東京国立博物館 制作：凸版印刷株式会社



DAY 1	12月11日	コメント0件
DAY 2	12月15日	コメント8件
	12月16日	コメント4件
DAY 3	12月18日	コメント3件+リプライ5件

DAY 3



生徒の感想

Q. プログラムを受けてみて、良かったこと、自分の中で向上したことなど

仲間の意見をいっぱい聞けて、仲間との会話をする勇気が向上した。

緊張がほぐれて楽にプレゼンテーションできるようになった。

最終課題ではミスなくでき、自分が変わったと思った。



広尾学園小石川中学
受講生徒



糸島高校
受講生徒

成長したなと思えることは2つある。まず、発表の準備の仕方が変わった。自分が伝えたい内容を設定し、どうしたら相手に伝わるか考えながら準備できるようになった。もう1つは人前でちゃんと話せるようになった。最初は声が震え手がかじかんだったが、緊張のほぐし方などを学べたので、人前でより楽に話せるようになった。

(EdTechツールを使って) 予習や自学習を自分の好きなタイミングで簡単にできたのが良かった。
対面だとどうしても自分の意見を話しにくいオンラインだと意見をだしやすかった。



糸島高校
受講生徒



広尾学園小石川高校
受講生徒

日本文化について理解を深められたのと同時に、英語で話すことやプレゼンをすることに慣れることができたのが良かった。最終課題を通じて、多面的思考を意識しプレゼンをする経験ができたことも良かった。

海外の人と話すことに少し抵抗があったが、講座を受けその抵抗がなくなった。

日本文化ワークショップでは、EtonXで学んだことを生かし、他の生徒と一緒に考えやアイデアを出し合い、より良い発表をつくることができた。



宮崎大宮高校
受講生徒

教員のコメント



福岡県立糸島高等学校 荒木礼子校長

Q. EdTechツール導入を決めた理由は何ですか。

本校の教育方針は、生徒を主語にする学校。本プログラムは生徒が自ら学び、考え、自律する機会になると思った。
また、教員が日ごろ学校生活で気づかない生徒の力、たとえば計画性、自主性、コミュニケーション力、プレゼン能力など無限の可能性を知ってほしいというねらいがあった。

Q. EtonXやETOKI-eduでの学びを通して、生徒の皆さんはどのように成長しましたか。

生徒の自信をつける、自己肯定感を持たせるというねらいを達成できた。
生徒は自分の苦手や引っ込み思案を変えたいという思いで参加し、大きく成長した。
(オンラインでの受講に関して) 自分がしないと誰も助けてくれない、仲間と協力しなくてはいけない、できないと思っていたけどできたという成功体験ができた。



福岡県立糸島高等学校 学年指導部長 小森純子先生

Q. EdTechツール導入を決めた理由は何ですか。

グローバル化において世界共通で発信していける力、自国のことをしっかり知ったうえでその魅力を発信していくという視点、生徒に持たせたい2つを身に付けられるプログラムで魅力を感じた。

Q. EtonXやETOKI-eduでの学びを通して、生徒の皆さんはどのように成長しましたか。

EtonXでは、それまで何を伝えるかだけに一生懸命だったが、聞き手が興味を持ってくれるか等、伝え方に気を配れるようになった。
ETOKI-eduでは、日本文化や糸島のことを知らない人にどうやったら魅力を伝えられるか等、聞き手に照準を合わせられるようになった。

Q. 御校でEtonXやETOKI-eduといったICTツール導入を民間企業と協力して行った意義はどんなものでしたか。

案ずるより産むが易し。教員が指導できるレベルまで理解しないとできないと思っていたが、生徒と一緒に学ぶスタンスで参加できた。
1人1台の端末の意義が感じられた。自分が発言しなければ陰に隠れてしまう、物事が進まない、という物理的環境があるので、生徒は全員自分ごととして参加していた。自分の端末で予習ができたので、事前に家庭でプレゼンの題材について調べシステム上に書き込んでいた。
そのため短時間で作ったにしても非常に魅力的なプレゼンができた。

教員のコメント



宮崎県立宮崎大宮高等学校 研修部主任 猪股秀一先生

Q. EtonXやETOKI-eduでの学びを通して、生徒の皆さんはどのように成長しましたか。

EtonXは大変そうだったが、生徒たちはコミュニケーションの仕方を学ぶことが目的と気づき、それまで長文読解のように一字一句理解しようとしていたのが、ある程度大きな枠組みを要約して理解する方向に舵を切っていた。臨機応変に対応する力、目標をクリティカルに判断し必要な手段を考える力が身に着いた。ETOKI-eduを使ったプログラムでは、多くの生徒が協働して発表を作り上げていくという楽しさがあり、生き生きと活動していた。英語での最終プレゼンテーションは、びっくりするくらい生徒の視点が育っていると実感できた。

EtonXで学び、ETOKI-eduで実践するという、生徒たちの能力を確実にするプログラムだと実感した。

Q.御校でEtonXやETOKI-eduといったICTツール導入を民間企業と協力して行った意義はどんなものでしたか。

ICTツールを導入する際、どうしても現場の状況に合っておらず、もどかしく思うこともある。今回EtonXとETOKI-eduを活用するにおいて、両事業者とは頻繁に連絡を取り合い、生徒への支援を本校の実情に合わせながらしていただいた。生徒の状況を踏まえて支援していただいたおかげで、大きな成果が出たのではないかと。共同で取り組んだ成果だと思っている。



広尾学園小石川中学校・高等学校 インターナショナルコース担任 細田洪平先生

Q. EdTechツール導入を決めた理由は何ですか。

本校はインターナショナルコースを設けており、海外帰国生が多数在籍しているため海外に興味関心を持つ生徒がたくさんいる。名門のイートン校の授業を日本にいながらオンラインで受けられると知り、大変興味を持って参加した。

Q. EtonXやETOKI-eduでの学びを通して、生徒の皆さんはどのように成長しましたか。

最後の日本文化の英語プレゼンテーション発表で生徒の成長を感じた。本校では文化祭で生徒一人ひとりがプレゼンテーションを行っているが、その時よりクオリティの高いプレゼンテーションを皆で協力して作っていた。このプログラムを通じ表現する能力が高まったと感じた。課題も量があったようだが、あきらめないうで取り組む姿勢も見られ、成長を感じた。

Q.御校でEtonXやETOKI-eduといったICTツール導入を民間企業と協力して行った意義はどんなものでしたか。

生徒の学習進捗を細かく共有してくれて助かった。EtonXは時差の関係で学校内ではなく自宅学習が多かった。そういったなかでも生徒の進捗を伝えてもらえ、細やかに管理していただいた。

■ EdTechツールの導入・運用における課題とその改善策

課題

■ ツール使用への理解協力を学校全体で得ること

英語学習であれば英語科教員など学習分類に応じた教員が導入担当になったとしても、利用環境チェックや運用時の生徒サポートなどを担うICT担当の先生、ICT利用にあたり教育委員会と各種申請を行う先生、参加生徒の学習進捗や困りごとを各担当が把握する、など取り組み当初から一貫した学校全体の協力が必要だが、理解浸透に時間がかかり、事業者と学校の連携に支障が出た。地域や学校によってICT導入に必要な手続きなどが異なり、学校側の負担や作業量を事業者側が事前に把握できていなかったことも課題。

■ きめ細かいICT支援の限界

ICT端末の立ち上げ、校内ネットワークへの接続、トラブルの要因判断、など生徒や教員に対し、事業者のEdTechツール範囲外の初歩的なICT利用支援が必要だった。本事業では、事業者ができる限り学校に寄り添って対応したが、今後導入校数や利用人数が増えると限界を感じる。教員にとっても通常業務外の作業が増え、負担が大きい。

■ ツールのユーザビリティ改善

本事業では、EtonX、ETOKI-edu、サポートサイトの3つのログイン情報を利用生徒それぞれに発行したことが、少なからず混乱を生んだ面もあった。特に学校で既に多数のICTツールを導入している際、複数のツールのログイン情報が存在しさらに混乱を生む。

改善策

■ 教員向け説明会の対象拡大、タスク表の作成

ツール導入に先立ち、当該学習担当者だけでなく学校全体の理解協力が必要なことを事業者から学校によく伝える。教員向け説明会は動画で見逃し配信をするなどし、多くの教員の目に触れるようにする。先生側の取りうるアクションを表化するなどし、ツール導入のどの時点で誰が何をすることになるのか明示する。

■ ICT支援員の活用

国が配置を進めている「ICT支援員」の活用が期待される。その配備を待たずとも、学校が事業者側が用意するICT支援員への支払いに使える公的予算があれば、意義が大きいと考える。

■ シングルサインオン対応

EtonXもETOKI-eduも現段階ではシングルサインオン非対応であるが、対応化を今後検討することにより、より学校教育現場で使いやすいツールを目指す。

凸版印刷株式会社

所在地	(本店) 〒110-8560 東京都台東区台東1丁目5番1号 (本社事務所) 〒112-8531 東京都文京区水道1-3-3
創業	明治33年（1900年）
代表者	代表取締役社長 磨秀晴
資本金	104,986（百万円）2021年3月末現在
連結売上高	1,466,935（百万円）2021年3月末現在
連結営業利益	58,789（百万円）2021年3月末現在
連結経常利益	58,053（百万円）2021年3月末現在
従業員数	連結 52,401名 2021年3月末現在

印刷で培った技術をもとに多角的なサービスや製品を展開する総合印刷会社。「印刷テクノロジー」をベースに「情報コミュニケーション事業分野」、「生活・産業事業分野」および「エレクトロニクス事業分野」の3分野にわたり幅広い事業活動を展開しております。雑誌や書籍、カタログ等の印刷だけでなく、ICカード製造やWebサイト構築、システム開発、電子出版、BPO業務、食品や日用品などの包装材、建装材、ディスプレイや半導体関連製品も手掛けています。教育事業においては、公教育向けデジタルドリルのnavima提供、教科書出版（東京書籍）、幼児向け遊具提供や絵本出版（フレーベル館）など、グループ全体で教育サービスを提供しています。

●ETOKI-eduに関する問い合わせ先
文化事業推進本部 事業企画1部
help-etokiedu@toppan.co.jp

グローバルスカイ株式会社

所在地	〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿4-20-4
創業	2012年
代表者	代表取締役社長 永田幸
連結売上高	3,000（百万円）2021年3月末現在
従業員数	連結300名 2021年3月末現在

グローバルスカイ株式会社は、サステナブルな社会を創るために、「未来を創り、世界とつなぐ」を理念に掲げ、人・企業・コミュニティの成長と国際化に貢献する体験型のソリューションを企画・開発・提供するクリエイティブ企業です。「創る」「つなぐ」「コミュニティを育む」ことを追求して教育・トレーニング事業を中核にグループ展開し、「グローバル市民として生き抜くため、ライフロングの学びをデザインする力」を強みに、あらゆる年齢層と産業界における人材育成につながる「ラーニング・エクスペリエンス」をリアルな場とオンラインで提供しております。日本、オーストラリア、ニュージーランドで展開する直営のラーニングセンターは、学びの体験をはじめとする様々なソリューションを知っていただく場と位置付けております。

●EtonXに関する問い合わせ先
EtonX Japan事務局
support@gskyedu.com